

平成29年度 第1回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 議事録

日 時：平成29年5月16日（火） 15：00～17：00

場 所：明石市役所分庁舎 4階 教育委員会室

出席者：委員11名（会長、副会長含む）、教育長、事務局6名

- 【委員】（学識経験者） 廣岡 徹、細川 明子、中嶋 修平
（明石商工会代表） 山本 直樹
（学校関係者） 長畑 順二、日置 大之、宗石 理、大賀 通孝、
吉永 達生、森本 明子
（行政関係者） 北條 英幸
*（保護者代表）井藤 圭順、堀川 彰子は欠席
- 【教育長】 公家 裕
- 【事務局】 平田 高之、藤井 鉄也、藤田 靖、庄司 淳一、
橋本 浩二、山脇 健次

傍聴者：1名

- 配布資料：「平成29年度 第1回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 次第」
「(別表) 明石市立明石商業高等学校力づくり検討会議 委員名簿」
「平成29年度 第1回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 会場図」
「明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議設置要綱」
「平成29年度 明石商業高等学校の入試の状況について（資料1）」
「全国商業教育協会主催検定試験 1級3科目以上合格者（資料2）」
「平成28年度卒業生 進路状況について（資料3-1）」
「平成28年度卒業生 進学状況について（資料3-2）」
「平成28年度 部活動の主な成績（資料4）」
「平成28年度 産学連携の状況（資料5-1）」
「平成28年度 高大連携の状況（資料5-2）」
「明石商業高等学校 平成28年度 地域連携事業活動（資料6）」
「『明石市立明石商業高等学校の学力検査における学区』の取扱いについて（資料7）」
「通学区域を全国学区としている公立高等学校について（資料8）」
「明石商業高等学校「国際会計科」について（資料9）」
「保育の学びに取り組む公立高等学校について（資料10）」

◎：会長 ○：副会長 □：委員 ●：事務局

1 開 会

●事務局

皆様、こんにちは。

定刻になりましたので、只今から平成29年度第1回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検

討会議を開会いたします。

本日、進行をさせていただきます学校教育課長の藤井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。さて、本市におきましては、ノーネクタイ等エコスタイルに努めているところでございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

本日の資料については、事前に送付させていただいておりますが、改めて確認させていただきます。次第、座席表、委員名簿、設置要、配付資料一式の以上でございますが、不足等ございませんでしたでしょうか。

なお、本日机上には、委嘱状と差替え資料等を置かせていただいております。

委嘱状につきましては、本来であれば直接お一人ずつお渡しすべきところですが、会議での協議時間を十分に確保するため、割愛させていただきます。何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、次第により進行いたします。

最初に、公家教育長がご挨拶申し上げます。

2 教育長挨拶

今、高等学校の改革が進む中、明石商業高等学校においても特色化を進める観点から、これまでも長期構想委員会でご協力いただくとともに、国際会計科の開設やスポーツ類型の設置など、取組を進めてきたところです。また、昨年度は、教育委員会と学校関係者との内部機関で連絡協議会を設置、学校の取組状況や入試結果等について互いに協議し、学校での改革に生かしてもらっているところです。このような流れの中で、学校内でのしっかりした取組や情報発信をしていただいて、大変優れた成果を挙げられているところです。地域からも親しまれ、落ち着きと活力ある学校になっていると、私どもも喜んでおります。

明石市では、人口増加という大変うれしい状況にあり、低年齢の幼児や児童が増えておりますが、県下、全国的には減少傾向であるということは明確です。明石市においても減少傾向になることが予想されます。次年度、再来年度は、市内及び学区の生徒数が減少するといった状況です。このような中、大学などでは、生き残りをかけた取組が進んでおり、高校においても学校の特色化を図り、魅力ある学校づくりを進めていかなければならない時期であります。

こうした中、3月市議会の質問に対して、私としては学校の魅力づくりを進めていくうえで、いい機会をいただいたと受け止め、この検討会議を立ち上げたところです。その中で、3つの貴重な提案をいただきました。1つは、国際会計科をはじめ、学校の充実した取組をさらに進めること、2つめは、学区の拡大について、全県と言わず全国という視野で検討したらどうかという提案をいただきました。もう1つは、全国的な課題となっている保育士不足に対して、明石で学んだ生徒が明石の子育ての一翼を担うという形になれば、市立高校が果たす役割にまた違った意味が加わるのではないかと提案です。

それぞれ課題はありますが、商業科、国際会計科での学びや部活動の活性化など、現状の教育改革はもとより、明石商業高校のしっかりした礎を築くうえでも、敢えて挑戦していくことも考えております。よろしく検討いただきますようお願いいたします。

●事務局

続きまして、委員の方々を紹介いたします。委員名簿に従いましてお名前を紹介しますので、それに続き、自己紹介をお願いいたします。

では、事務局職員の紹介をいたします。

3 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議について

●事務局

それでは、本検討会議について、設置要綱をもとに、平田事務局次長（指導担当）が説明いたします。

※「明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議設置要綱」をもとに説明

4 会長・副会長の選任

●事務局

設置要綱第5条に基づきまして、会長・副会長の選任に入りたいと思います。

第5条には、「検討会議に会長及び副会長を1名ずつ置き、委員の互選により選任する」とありますが、ご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

□委員

委員長には、元県立高等学校の校長であり、第2期明石市教育振興基本計画検討委員会の委員長であった廣岡委員がふさわしいと思いますが、いかがでしょうか。

●事務局

他にご意見はありませんか・・・

それでは、本検討会議の会長として、廣岡 徹（ひろおか とおる）委員を承認される方は拍手をお願いいたします。

ご承認、ありがとうございます。

会長は、廣岡 徹（ひろおか とおる）委員をお願いいたします。

副会長については、廣岡会長からご指名いただけませんか。

◎会長

学校現場の代表であり、中学生の進路状況に精通している、大久保中学校長の吉永 達生（よしなが たつお）委員をお願いしたいと思います。

●事務局

本検討会議の副会長として、吉永 達生（よしなが たつお）委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、廣岡委員、吉永委員、会長・副会長席にご移動願います。

廣岡会長、吉永副会長より、一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎会長

教員のスタートは明石商業、教師生活の基盤をつくっていただいた。今回このような形で母校のように思っている明石商業高校の将来を検討する会で委員の委嘱を受けまして、教師冥利に尽きる思いです。この場では自由に夢を語っていただき、その中で具体的な方向を見つけることができればと思っております。忌憚のない意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○副会長

同級生、教え子の多くが明石商業高校にお世話になっておりました。住まいが魚住駅付近であり、明石商業高校がますます魅力的になっていることを感じています。さらに魅力的になればと、微力ですが頑張りますので、よろしくお願いいたします。

●事務局

それでは、この後の協議につきましては、進行を会長にお願いしたいと思います。

5 協 議

（１）明石市立明石商業高等学校の現状について

◎会長

それでは、協議に入ります。

まず、協議事項(1)「明石市立明石商業高等学校の現状について」明石商業高等学校よりご説明願います。【資料1～6】

★明石商業高等学校長より資料をもとに説明

◎会長

ただいま、明石商業高等学校より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご質問がありましたら、どうぞお出してください。

◎会長

資料1で、明石商業高校は一定の評価を受けており、かなりの倍率を誇っている。過疎化が進む地域の県立学校の将来構想検討に関わっているが、中高連携等の形にしても定員の確保が難しい流れの中で、明石商業高校は志望も多く、その中で将来について考えているのは、他の市町にとっては羨ましいことだと思います。市立という特徴も生かしながら、そのメリットもさらに活かすことができればと思っています。

□委員

資料2で、全商検定の三冠以上を取得している者にすごく波があるのは何か要因があるのか。

□委員

昨年度特に低いのは、商業の教員が学年に3名で、他の学年に比べて少なくなっている。学年に商業の教員の配置が多い方が、指導が手厚くなる。物理的なことが原因の一つである。

□委員

学生集めに苦勞する中、魅力を出していただくということで、明商（市立明石商業高等学校の略称）への希望には、部活と地域との連携に力を入れているという説明があったが、他に何か魅力があって、生徒が集まっているところがあるのか。

□委員

生徒が何を優先しているか、全てわかりませんが、部活動で近畿大会へ出場しているクラブが多いことは公立高等学校の中でも評価され、その学校が明石の地域にあるということもある。商業高校が、県商（県立神戸商業高等学校の略称）や姫商（県立姫路商業高等学校の略称）があるが、中学校に聞けば、県商と明商が競合することはあまりない。魅力は、部活動と商業高校があまりないこと。全国的に見ても、商業高校の生徒数は減少している。地域貢献事業も50あるが、これから浸透させていきたい。

□委員

担任している中で、選ぶ高校の範囲が増えているため、生徒が選ぶのが大変である。それぞれの学校が魅力を出されているため、大変な時代だと教師も思っている。前年度の進路担当者に聞けば、オープンハイスクールに生徒がたくさん行くようになり、自分の進路選択ができるようになってきている。

●事務局

昨年度、現2年生になるが、1年生の夏前にアンケートを実施し、明商を受検した理由について、26%で成績が一番多く、次いで25%が部活動、18%が商業を学びたい、さらに13%が卒業後に就職を考えている生徒が希望している。明商の立地状況から、専門学科を置く高校としては、県立東播工業高校や県立兵庫工業高校等工業高校はあるが、立地的に遠いため、就職を考えている生徒にとっては、普通科でない高校を選ぶという点では有利な場所でないかと考えて

いる。

◎会長

部活動の中心になる選手は主にスポーツ類型を目指して来ているのか。

□委員

スポーツ類型に分かれていくのは、2・3年であり、1年は、全員カリキュラムが同じである。スポーツ類型を選べば、スポーツに関する時間が増えるが、その分が商業の時間が短くなり、資格が取りにくくなることもあるため、必ず運動部の生徒がスポーツ類型に殺到するわけではない。他の商業科の普通の類型の方が多い。

□委員

昔は、明商を卒業すれば、大学まで行かなくてよい風潮であった。高校さえ卒業すればいい時代が、変わってきた。地域性で言えば、以前明商が江井ヶ島にあったため、当時江井島中から23名中15名が近いため希望した。経済的なことも含め、そういう希望になっていた。

同窓会は、学校長の希望により卒業生だけでなく在校生に対して、部活動に関しては、運動部だけでなく地域貢献活動をしている吹奏楽部等文化部へも支援する体制を新たに作っている。

◎会長

過疎化が進む地域では、生徒数が減少し廃校の可能性のある学校のほとんどが、市町からのバックアップにより、地域に残そうとしている。明商は過疎ではないが、市や同窓会にもバックアップしていただけるようお願いしたい。しかし、そうなると市外から来ているのに、市の恩恵を受けるのか、という考えも出てくるので、そういうことも踏まえて検討していく必要がある。

□委員

商業高校は、女子生徒が20年前ほどは多かった。最近、明商ではほぼ男女半々になっている。意識してそろえているのか。部活の関係で、成績を配慮するが、学校内で基準があるのか。

□委員

男女の比率は、入試での選抜のため、配慮したのではなくたまたま半々になっている。商業高校は、女子生徒が多いが、本校では部活動で希望する男子生徒が多く、例えば昨年度は野球部が135名いたため、そういうことも影響していると思われる。

部活動への配慮は、3月の学力検査においては、選抜要綱にも記載されているが、ボーダーを選抜要綱では10%までは下げられることを認められている。それをどこまで考えるかは、学校裁量であるが、それを考慮し実施している。

◎会長

委員の皆様、ありがとうございました。

(2) 学区の在り方について

◎会長

次に、協議事項(2)「学区の在り方について」に移ります。
まず、現状について、事務局より説明願います。【資料7】

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご質問がありましたら、どうぞお出してください。

□委員

学力検査による学区を全県へ拡大することについては、時期的に考えるともう少しは早くすべきであったと思われる。学級減も早めに手を打ち、商業科のレベルを落とさずにとというのは良かった。人気がある時にやらないと、優秀な生徒の確保はできない。早く、来年度からやるのであれば、すぐに決定しないといけない。

県単位でみると、県境がボーダレスになり、県が違っても受験が可能になってきている。できれば早い動きをして、決定していくのがいいのではないかと。

◎会長

市立高は市民のためという前提があるが、学区が変わる中で、公立学校としての受け皿という考えが、一般的になってきている。制度上、明石市の生徒は他市の学校を受検できるが、他市の子は明石を受けられないという矛盾が生じている。希望するしないは別にして、背景が変わってきたこともあり、この資料が提示されていると思われる。

□委員

旧学区しか来れなかったが、推薦入試の学区拡大により運動部はもちろん、例えば、東は宝塚市、西は加古川市から来れるようになった。

◎会長

新学区入試では、交通の便の良い学校に生徒の希望が多いという傾向がみられる。同レベルの学校を選ぶ際には、やはり利便性が優先される傾向の中で、立地の比較によっては、明商は少しハンディがあるかもしれない。県は、3年を経た新通学区域入試について検証するようだ。

委員の皆様、ありがとうございました。

次に、全国学区について資料が出ておりますので、事務局より説明願います。【資料8】

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご意見、ご質問等がありましたら、どうぞお出しください。

□委員

学区拡大の方向でいいと思われる。全国から明商へ来たいと思われるのは、本当に魅力的なことである。もし、来年度から実施するには、いつまでに決定しなければいけないのか。

●事務局

一般的な話ですが、明商の学力検査の学区については、今まで1学期中に発表してきました。夏休みを中にオープンハイスクールがあるため、その時には伝わるようにしている。県の高校教育改革で新しい学科を設置する場合は、早くから学科設置についてアナウンスをすることになるが、学区については遅くとも1学期中には結論を出し、中学校の進路指導に影響が出ないように周知する必要があると思います。

◎会長

県立村岡高校では、スキー部の関係で他府県では代表になれないが、兵庫県なら代表になれる可能性があるという話があったようだ。その中で、スポーツ、スキーに特化したのではないか。特異な例かもしれない。

□委員

奈良県で全国学区にしている学校は、馬術、ライフル射撃等部活動が特殊である。しかし、明商は、どこの学校にもある部活動ばかりである。全国から募集するには、かなり検討の必要があり、せっかく拡大しても成果が出なければ意味がない。資料から成果は見られないし、うまくいっていないのではないか。

◎会長

学区については、2つの段階があり、明石学区を全県にするステップ、さらに大きな夢、方向性として全国学区で生徒を募集するステップ。そして、そのための魅力づくり、学科づくりである。

ただ、滋賀県や和歌山県の取組は、高校の維持、町に高校を残したいという思いが背景にあるように思える。小さい規模の学校に県外から生徒が来れば、何らかの活性化はあるようだが、継続して一定人数が来るかどうかを悩んでいるようだ。それに対し明商は、希望者が多く、考える基盤は違っている。

□委員

棒高跳びなど特殊な種目により、陸上競技部が全国優勝した過去がある。その中で、全国から明商へ来たいという声もあったけれど、来れない状況があった。野球部も選抜に出場する強さがある中で、明商で学びたいという生徒がいれば、門戸を開くべきではないか。それが学校の活性化になるのではないか。他地区から推薦で入学する生徒が、明石学区の生徒と交じり合っただけで相乗効果で良い方向にも向かったように思っている。他地区から入ってくるというのは、相当の意識の高さがないと、なかなかやっていくことができない。そういう意識の高い生徒は大切にすべきである。今いい状態だからこれでいいというのでは、どんどん衰退していく。市内で商業科に行きたい希望者には、3～4クラスで十分、そのなかで7クラスもあり、倍率が高いのは、部活動で学びたい思い、最終的には商業で生きる術を身に付けたいという生徒たちがいるため、学区拡大は魅力ある学校づくりにするための一つでもある。

早く取り組めば、県内で市立高が初めてのことであり、いいと思われる。

□委員

卒業生として、いいことであると思われる。全県から、また全国から集められるのであれば、レベルが上がると思っているが、逆にそうなると県からの補助がなくなるのではないか。

明石市が県からの補助をいただいているのか、昔のうわさで明石清水高との統合で、市立高でなくなってしまうのかなど、全国学区の話でいろんな憶測が出てしまう。

□委員

市立高を運営するに際し、約6億5500万円かかっている。その中で特定財源として、学校が入試考査料や授業等での収入が約1億1200万円ぐらいある。残り約5億4300万円のうち、約5億2500万円が国からの交付税である。生徒数及び教員数で算定されるので、市内や県内の生徒率で変わってくるものではない。最終的な不足分は、市が補っているが、学校の運営に関しては、ほぼ交付税と授業料で賄っている現状である。

ただし、施設については、一部国の補助があったりするが、市の負担になっている。

◎会長

委員の皆様、ありがとうございました。

(3) 学科の在り方について

◎会長

最後に協議事項(3)「学科の在り方について」に移ります。

まず、国際会計科について、明石商業高等学校より説明願います。【資料9】

★明石商業高等学校総務部長より資料をもとに説明

◎会長

ただいま、明石商業高等学校より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご意見、ご質問等がありましたら、どうぞお出してください。

◎会長

次に、保育に関する学科について、事務局より説明願います。【資料10】

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご意見、ご質問等がありましたら、どうぞお出してください。

□委員

明石市は、子育てには力を入れている。医療費無料など画期的な取組がある。ただ、保育士不足の現状もわかるが、保育の学科を出たからといって、免許が取れるわけではない。商業科を出れば、簿記などの資格が取れ、就職が有利になることもあるが、高等学校の保育科を出たからと言って、免許が取れるとはかはない。高校を出て、または専門学校へ行って、資格が取れる。そういう中で、保育科についてはどうかと思う。

□委員

保育者の求人情報が多く、保育士が足りない現状である。保育士を目指す学生は、中学校のトライやる・ウィークで幼稚園に行ったり保育園に行ったりする経験により希望することが多い。しかし、実際に実習などに行ってみると、子どもと楽しく遊んで仕事が成り立つわけではなく、かなりハードルが高いことに気がついて、進路変更する学生もいる。厚労省から保育士の養成校の認定、文科省から幼稚園教諭の養成校の認定を受けないとできない。中学時のトライやる・ウィークの経験の中で、将来こんな仕事がしたいという興味・関心を、高等学校でも選択教科やボランティア経験等により、本校へ希望することがある。入りの部分ではいいが、高等学校で大々的に保育士を養成することは、難しいと思われる。

保育園や幼稚園の求人には、ピアノが弾けることが必須要件となっている。本校の学生もかなり苦慮している。特別講師の派遣や個人レッスン室も確保しているが、なかなかできないこともある。

短大でより専門的なことを学び、保育士として就職していく状況があるが、国も保育士の処遇が悪いとか、長時間労働など大変な仕事という印象があり、本校の学生でも、保育士になっても将来に不安を感じている状況がある。

そういう意味では、とっかかりの学びであるべきである。

□委員

学区の話は、時代の流れであると思われるが、保育については、生徒のメリットがないとなかなか進めにくい。学区には、生徒等にメリットがある。保育科での学びにメリットがないと、しんどいと思われる。

◎会長

類型等の中で、高校側のねらいは医療・看護系の類型を設置し、優秀な女子生徒を求める傾向があった。その中で、医療・看護系では競合するので、東灘高校は保育系を入れたように思われる。そして、保育の希望が強いので先取りしようとしたが、資格に結びつかないという課題がある。

□委員

学校を運営していく中で、PTAは必要になる。まず、役員の確保が難しい状況の中で、全国学区になるのはいいことだが、遠方の生徒が増えれば、役員選出の際に遠方のためできませんということになり、PTAの運営を危惧するところがある。生徒減は会費の減収等運営にも影響する。全国学区拡大に際し、運営等も勘案した検討もしていただきたい。

○副会長

中学生で、保育士になりたいという生徒は多い。トライやる・ウィークでも保育園等の希望が多い。中学生がお兄ちゃん、お姉ちゃんと慕われる経験が、保育士になる夢につながっている。そのために、まずは普通科の高校へ進学し、それから資格の取れる養成系の大学・短大等へ希望する状況がある。

◎会長

委員の皆様、ありがとうございました。

本日は長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきました。

次回は、中学校の進路指導に影響を及ぼすことから、まず学区を中心に協議したいと思います。

明石商業高等学校の新たな魅力づくりに向けて、今後も協議いただきますようお願い申し上げます。

では、司会を事務局へ戻します。

6 連絡事項

●事務局

廣岡会長、ありがとうございました。

では、連絡事項へ移ります。

今後のスケジュールについてですが、次回の検討会議は、6月26日（月）15：00より、ここ教育委員会室にて開催いたします。お忙しいとは存じますが、予定願います。

7 閉 会

●事務局

以上をもちまして、平成29年度 第1回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議を閉会いたします。

委員の皆様、本日はありがとうございました。